



学校だより

「体をきたえる子」・「思いやりのある子」・「最後までやり抜く子」・「進んで学習する子」

令和7年3月21日

江戸川区立清新第一小学校

江戸川区清新町1-4-19

校長 石橋 悟

NO.12

「さようなら」は別れの言葉ではなく ～新しい出会いと 希望の未来へ 送る言葉です～

校長 石橋 悟

前年度の開校40周年のスローガン「羽ばたこう みんなで創る 希望の未来へ」を受けて、今年度は「希望の未来へ」繋げる年として、「みんな」を意識し、保護者の皆様、地域の方との協力を得ながら、教職員、そして子供たちで開校41周年の1年間を頑張ってきました。その成果は学校公開、各行事の感想、そしてホームページのアクセス数に表れています。中でも、授業の感想は、ほぼ100%お褒めの言葉を頂きました。「教師は授業で勝負」を校内の目標の一つに掲げていたので、確かな手応えを感じることができました。来年度も今の気持ちを忘れずに頑張っていきますのでよろしくお願いします。

さて、3月は別れの季節と言われ、「さようなら」をいう機会が多くなりますが、「さようなら」は別れを意味するだけの言葉ではありません。4月からの新しい出会い、新しい生活に向けての送る言葉であり、楽しかった思い出を一旦胸にしまい、希望の未来へステップしようという気持ちになる言葉です。卒業する6年生を始め、全学年のクラス替え、多くの先生の異動・退職と4月からの新生活に向け、爽やかに「さようなら」を言いたいと思います。

◎10年間ありがとうございました。

私が教員になったのは、昭和57年9月です。江東区立第三砂町中学校という東西線の南砂駅からすぐの学校でした。その当時は清砂大橋がなかったので、東西線からの景色がよく見えました。まだ工事中の清新町が完成し、当時としては画期的なデザインの清新一小、清新一中を車窓から見ていたのを鮮明に覚えています。43年経った今、自分がその学校で教員生活を終えるとは夢にも思いませんでした。ここまでやってこれたのは、卒業生を含めた子供たち、保護者・地域の皆様、そして教職員のみなさんのおかげです。心から感謝します。これからは、清新一小の校長であったことを誇りに、恥ずかしくない第二の人生を送っていきます。10年間本当にありがとうございました。

◎令和6年度離任式・・・今年度も多くの教職員が異動します

前年度に引き続き、今年も多くの教職員が異動します。東京都も3年前から他県と同じように年度内に異動の報道発表がされ年度内の離任式実施が多くなっています。4月から新たなスタートが切れるようにというのがその趣旨です。今年度から本校も年度内実施ですが、4月にも前年度の異動職員の離任式を行っているので2回目になります。3月25日の修了式の後に続いての離任式は、子供と教職員がお互いに別れを惜しむ光景が目には浮かびます。しかし、春休みに気持ちを切り替え、新年度に新たな気持ちで臨んでくれることを願っています。

◎巣立っていく6年生へ

6年生は24日（月）に卒業式を迎えます。今年の6年生は平成24年度に生まれた子供たちです。この平成24年度は、私が清新一中の副校長に着任した年であり、その年に生まれた子供たちがこんなに成長して、私にとって最後の卒業生になるのは感慨深い気持ちになります。この1年間は、6年生として立派に後輩たちにお手本を示し、最高学年としての役割を果たしてくれました。その成長を嬉しく思うと同時に、寂しさも感じます。

入学時218名という本来ならば35人学級編成で7クラスなのですが、教室がなく、教育委員会事務局が特別に都の教育委員会に申請を出して、1年生では異例の40人学級編成の6クラスでスタートしました。そして、6年間40人学級編成で学校生活を送った江戸川区内小学校唯一の6年生です。1年生の学年末にコロナ禍になり、4年生までは舞台発表が経験できませんでした。そういう状況の中でも、5・6年生では立派に成長した姿を見せてくれました。1年から携わった先生30名以上、そして子供たちが頑張った証です。24日（月）は素晴らしい卒業式になるでしょう。そして、「明るい未来」に向けて、それぞれが進学する中学校で充実した学校生活を過ごしてほしいと願います。

